

第8回 市民交流会 第2回実行委員会

とき：2007年8月29日 19:30～

ところ：市民協働センター 1F

T：第1回の300人は市民の声ではなく行政サイドから声かけした結果。

S：目新しいものが無い中で行政からの呼びかけは現実として難しい

Y：ちょっとしたことで工夫があるといいかも。

A：市民側もあまり声かけし無くなった。

H：宣伝どうこうより今までと同じことをやっているには増えない。

I：自治会連合会とかの組織を活用し参加で拡大したら。

I：結果がわかるような、何かなるというものがあればもっと参加するのでは。

I：団体は活動しているが自己満足に終わっている。

I：団体は、なぜ必要でなぜ活動をやっているのかが外からわからない。

Y：任意団体はわかりにくい。自治会などは災害地震とか目的がはっきりしている。

話し合いながらまちづくりの未来を発言できる場を、後のフォローが必要。方向性を変えていけばどうか。

U：7年間の結果が出ていないと、魅力が無い。

K：まちづくりに考え方には温度差が合って、親睦だけとか、活性化とか、

I：もともとフォーマットが無い。趣旨がわかりやすく親しみやすい、テーマを。

A：実現のためにグループを立ち上げてきた。卒業生がいる。廃れてはいない。

市民が行政に参画する場が他にあるか。あったらいいほしい。

勝手にやっているとの声がある。来ないで文句を言っている。

F：原点から変わっていないのでは

A：行政と市民がふれあい実現にむける。

S：工夫はしてきている。原点は変わっていない。

O：人を寄せるだけでなくまちづくりの努力をしている。本当に行政との話し合いを。

Y：実績も評価しにくい。

S：結果はすぐには出ない。自分たちでよくしていこうとの姿勢で企画作りを。

H：毎回同じことをやっている。同じ形式、原点の戻りには道を外れないと。

アグレッシブなことが無い。同じことならうんざりする。

I：実行委員長を決めたい。一見政幸さんに決定します。

副：服部亜樹 吉田 会計：小菅 書記：伊藤 エコ推進：浅田

A：展示と討論を分けたらどうか。展示だけの参加者も可に。子どもにも役に立つことを。地球温暖化に市民が何をやるべきかなどの啓発講演など。子どもと親を巻き込んで全世代的なイベントに。テーマごとに専門的な人を呼んできてよかったと思える場に。自分たちの研究しておくとか。持ち帰られるような交流会に。

M：テレビの太田総理大臣のようなものを採用したら。テーマを切り替えていったら各種団体から必ず参加させるくらいの呼びかけが必要。